

**7月21日以降、高温によるほ場の乾燥が進んでいます！**

- 北陸地方は7月28日頃からかなりの高温となる予報です。（新潟気象台発表）
- 管内の大豆は開花期となっており、大豆に水分が必要な時期を迎えています。
- うね間かん水を適切に実施して、大豆への乾燥ストレスを軽減しましょう。

**<実施事項>****狭畦栽培や培土を実施したほ場ではうね間かん水を実施**

※これからの開花期～子実肥大期(7月下旬～8月下旬)は最も水分を必要とする時期です

**☆うね間かん水実施のポイント☆**

- かん水は短時間で行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに排水しましょう
- うね間や額縁排水溝と排水口の連結を確認し、手直しを忘れず行いましょう
- 今後も5日以上連続で降雨がなく、うね間が白く乾いたら、葉が裏返る前にうね間かん水を実施しましょう

**☆干ばつによる大豆への影響☆**

- 根粒の窒素固定活性や光合成、根の養分吸収力の低下が大きい
- 落花・落莢が発生し着莢数が減少する

⇒これらを回避する対策としてうね間かん水は非常に重要です！